



コミュニティ・バンク京信
現担当者
藤本 圭佑

株式会社サポートどれみ
代表取締役
中村 敦美様

コミュニティ・バンク京信
初代担当者
川口 晃司

全国
初

＼ カフェなのに椅子がない！ /

全席車いすのカフェ開業に伴走！

バリアフリーという言葉が生まれて半世紀。
車いすを取り巻く環境に変化はあったのか？



今回で紹介するカフェ「WHEELCHAIR CAFÉ SPRING」は全席が車いすになっています。車いすの方が快適にカフェで過ごせることはもちろん、一般のお客様にも車いすに座って飲食してもらうことで、車いすのことをもっと知ってもらいたいという願いがありました。カフェを運営される「株式会社サポートどれみ」の代表取締役 中村敦美様は車いすのお客様をゲストとしておもてなしすることを心掛けておられ、店内設備・備品も車いす目線で設計されています。そのカフェの開業に伴走し、度重なる難問に立ち向かった九条支店(当時)川口の取組をご紹介します。





日本人にもっと車いすに触れて欲しい

中村様は、家事代行業、高齢者や身障者を対象とした旅行支援業をされています。そこで気がかりとなったことが、車いすの方が安心して過ごせるカフェが観光地に少ないことでした。

「街中で車いすの方が段差でお困りになっていても、手助けするのは大半が外国の方で、日本人はお手伝いすると、かえってご迷惑ではという遠慮があつてなかなか手助けできない。多くの方に車いすに触れていただくことで、車いすの方を手助けするハードルを下げたい」とカフェ開業を志されました。



開業に必要な人材が見つからない！

カフェは、障害のある方が就労に必要な知識及び能力の向上のための訓練・支援を行う「就労継続支援B型事業所」であることを目指されていました。ところが障害福祉サービス事業所を運営する際に必要な「サービス管理責任者」の資格を持った人材が見つからず、中村様自身がその資格を取得しようかと悩まれるほどでした。それを見た川口はここまで来て最後のピースが埋まらないことをとても悔しく思い、お取引先で「就労継続支援B型事業所」を運営されている方に相談。するとカフェ勤務を希望されていたサービス管理責任者が奇跡的に見つかりました。この川口のマッチングにより、事業が大きく前進しました。



身障者が優先のカフェがあってもいい



就労継続支援 B 型とは

障害や年齢、体力などの理由で雇用契約を結んで働くことが困難な人が、就労の機会を得たり、就労に必要な知識や能力の向上のために就労訓練を受けたりすることができる障害福祉サービスです。



このカフェで提供される「みそぼん」こと味噌玉の製造工程は、比較的簡単な作業であるため、就労継続支援B型には適した作業となっています。



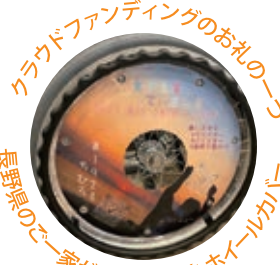
「みそぼん」は生味噌を使ったインスタントのお味噌汁の素で、見た目もかわいく、大人気商品になりました。



クラウドファンディングを活用して車いすを調達

車いすの調達にはクラウドファンディングを活用。返礼品としてランチ無料券や車いすのホイールカバーのデザインができるプランなどを用意することで支援を募りました。カフェがオープンすると、ご支援くださった長野県のご一家が京都までご来店され、さらに子供用車いすの寄贈もしてくださいました。それはこのカフェの取組が京都以外の地域にも発信できていることを実感した瞬間でした。

中村様は、近所の方が気軽に來られて、会話を楽しめるコミュニティ・カフェのような存在でありたいと今後の意気込みを話されています。



川口さんは当店オリジナル商品「みそぼん」の名付け親。

何事も親身になってやってくださる方で、2年越しで探してもなかなか見つからなかった「サービス管理責任者」を探してください、川口さんのおかげでここは開業できました。

現在、全席車いすのお店は日本でここだけですが、これから観光地周辺にはこのようなお店を増やしていきたいです。



株式会社サポートどれみ
代表取締役
中村 敦美様



コミュニティ・バンク京信
川口 晃司

事業の構想から新店舗開店まで途中様々な課題がありましたが、2年越しにやっとの想いで形になりました。今回の第二創業は中村社長にとっても私にとっても一生忘れることのできない印象に残る物語となりました。

これを励みとして、今後さらにコミュニティ・バンクとしての役割を果たしていきたいと思っております。

コミュニティ・バンク京信が 地域の人材マッチングをサポート

当金庫は、地域の人材に関する課題を解決するために、地域特化型の求人マッチングサービス「ジョブアンテナ」を運営するインタラクティブ株式会社と業務提携し、2023年8月より「ジョブアンテナ京都」のサービスを開始しました。

今回は、北野支店 営業担当の塩山がお客様の人材マッチングをサポートした事例をご紹介します。



地元での採用に特化した 求人マッチングサービス

京都市北区にあるKURA.MONZENは、日本の美術作品の展示販売を手掛ける

アートギャラリーです。代表のマンゴールド ロバート様は販売だけでなく、**若手アーティストの育成や紹介にも力をいれるために、新たな人材の雇用を考えておられました。**そこでまず、全国に広く募集をかけられる求人サイトに登録しましたが、数か月経ってもほとんど応募がありませんでした。その話を聞いた塩山は、**地元の人材マッチングに強く、企業からも求職者にアプローチかけられる「ジョブアンテナ京都」**を提案しました。



地域のはたらくを助めよう
ジョブアンテナ 京都



コミュニティ・バンク京信
塩山 恭平

地元で長く働ける人を探していると聞き、その意向に沿った人材を探すことができるジョブアンテナ京都をご紹介しました。結果として事業者側、求職者側の双方に喜んでいただけて嬉しいです。

提案

求人掲載まで丁寧に伴走

このサービスでは、求人サイトに掲載する文章をプロのライターが作成し、採用マーケティングの目線を持った専属担当者が、マッチングする確率を高めるために都度、掲載情報のメンテナンスを行います。また、求職者側から企業に「いいかも!」を伝える機能があり、企業側に興味があることをアピールできます。さらに、求職者が応募する前にチャットで企業に質問できることで、より質の高いマッチングに繋がっています。

塩山は、このサービスの担当者との面談の場を設けて自身も同席し、マンゴールド様に疑問や不安が残らないよう務めました。その結果、**求人情報の掲載が決まってから1ヵ月ほどで多数の応募があり、マンゴールド様は大変喜ばれました。**

塩山さんがいなければ、雇用の話まで進みませんでした。また、ジョブアンテナ京都の仕組みでは、求職者側から声をかけていただけのため、「ここでこの仕事をしたい」という気持ちを求職者から強く感じました。

応募・採用



KURA.MONZEN代表
マンゴールド
ロバート様

いいかも!を送る

新たなスタート

今回、求人サービスを利用して、最終的には3人の雇用が決まりました。マンゴールド様は、**若手アーティストをより手厚く支えられるとともに、新しい社員の育成にも力を入れられるようになりました。**



新入社員
岩木 ずず様

美術系大学で学んだことを活かせる仕事に転職を考えていました。SNSで見かけたジョブアンテナの広告に「地元の求人を載せている」との記載があり閲覧したところ、KURA.MONZENギャラリーの求人を見つけました。美術系の仕事を半年かけて探す予定でしたが、それよりも早く理想の職場を見つけられました。

亀岡地域を 盛り上げる プロジェクト 始動!

亀岡の魅力を知ってほしいという思いからスタートした「KIRI² KAMEOKA」。当金庫 亀岡・東亀岡支店の職員と亀岡市、芸術を通してのまちづくりに取組むかめおか霧の芸術祭実行委員会が協力し、QUESTION を会場にして、第2回目が開催されました。

亀岡地域の方々を巻き込んだ開催

職員は当金庫とのお取引の有無に関わらず、亀岡で活躍する事業者のもとへ足を運び、直接、協力を依頼することで、できるだけ多くの亀岡市民を巻き込んだ開催を目指しました。そして農家や料理店、雑貨屋、製材事業者など26の事業者の出店が決まり、またお店や商品、亀岡の取組に興味を持ってもらえるようなアイデアを出し合うことで、より魅力のあるイベントを作っていました。

亀岡の魅力が詰まった「KIRI² KAMEOKA」

当日は『食とアートと子育てと』をテーマに、亀岡の食材を使ったフードコートやマルシェをはじめ、まちづくりや居場所づくりの観点から亀岡の魅力を紹介するトークセッション、端材を活用したワークショップなどを実施しました。さらに、規格外の果物を使って、農家と酒造がコラボして作った「イチゴの甘酒ドリンク」を販売。「イチゴの甘酒ドリンク」は会場でも大好評で、正式に商品化することになりました!

農家
×
酒造

イベントオリジナル商品
果肉たっぷりいちごの甘酒

知ってもらって、 つながって、亀岡を盛り上げる!

KIRI² KAMEOKAにより、子育てや芸術を活かしたまちづくりの取組や亀岡で活動するお店を来場者に知ってもらえることができました。また、出店した亀岡の事業者同士のマッチングにもつながりました。今後も、亀岡市へ訪れたいかなるよう工夫を凝らし、さらに亀岡の事業者同士の交流の促進を目指します。

亀岡市長 桂川 孝裕様



亀岡市のまちづくりの取組に、京信さんにもお手伝いいただく中で「QUESTIONでも亀岡を盛り上げる取組をしよう!」と提案いただいたのが始まりでした。亀岡市としてもKIRI² KAMEOKAのような人と人が繋がり、新しいものを生み出していくという文化を大切に思っています。行政としてやりたいと思っても簡単にはできない中で、京信さんが緑の下の力持ちとして活躍されていることを大変嬉しく思います。今後とも協力して地域を盛り上げていきたいです。

当金庫・亀岡市・
実行委員会
でアイデア出し



わたがしを
霧に見立てたカレー

コラボ
わたがし
の作りかた



コミュニティ・バンク京信 安達 統偉

1回目の開催では魅力を発信することを大きな目標にしていました。2回目では前回の経験を活かし、魅力の発信に加えて、新商品の誕生や事業者同士が繋がる場にすることができました。今後のKIRI² KAMEOKAも単なる発信で終わらせず、実際に来場者に亀岡市へ来てもらえるような工夫をするなど、交流が広がる場にしていきたいです。



Cスクエアバックナンバーはこちらからお読みいただけます！
[Click!](#)